

紀南病院 研修医通信

第48号

2014年7月号

平成26年7月30日発行



「研修医通信」 東京大学医学部附属病院研修医2年目 尾崎公輔

まずは、みなさん1か月という短い期間でしたがありがとうございました。初日、阿田和駅に降り立った時はこの1か月どうなるのだろうという不安もありましたが、とても充実した1か月間を過ごすことができました。

なぜ僕が東京からここ、三重に来たかということから説明させていただきます。僕は26年間生きてきた中で、三重県に足を踏み入れたことがありませんでした。毛嫌いしていたわけではなく、特に用事もなかったのて来たことがありませんでした。なので、地域医療で三重県に行けると知った時から三重県に行くことを考えておりました。しかし！他の候補に未開の地、四国は高知という選択肢もあり、この2県で迷うこととなりました。最終的には鯉よりも松阪牛を食べてみたいという気持ちが勝り、三重県に行こうと決意しました。

1週目、慣れるのに必死でいつの間にか終わっていました。

2週目、紀南病院の業務にも慣れてきたところで紀和診療所へと行かせていただきました。往復の交通手段はバス。行きも帰りも同じ運転手の方でした。さらに驚いたのは行きも帰りも客は僕一人だけ!!運転手さんと仲良くなりました。必ず猿が出る運転手さんはしきりにおっしゃっていたのに、行きも帰りも野生動物には出会えませんでした。午後の出張診療では、小森診療所と西山診療所に行き、そこまでの道のりの遠さと、診療所に来られた方々の元気の良さにびびり。大学病院のような急性期の病院では診られない、元気な患者さんを診療することの大切さを学んだ気がします。

週末、念願の伊勢神宮に研修医三輪田君と行きました。三輪田君の車は乗り心地最高です。伊勢神宮につくと赤福水が待っていました。こんなにいいかき水を食べたのは初めてでした。夕飯は前日に三輪田君が独断で決めた和田金へ。この道30年の仲居さんに焼き物を焼いていただき、ただひたすらに高い肉を食べました。クロックスで和田金に入った三輪田君は忘れません。

3週目、荒坂診療所に行かせていただきました。ここでの診療は僕の中で本当に素晴らしいものでした。30人ほどの診察をさせていただき、困った時にはフォローしていただいた平谷先生には感謝しています。紙カルテというのも働き始めて初めての経験で、悪戦苦闘し、患者さんを長い時間待たせることとなってしまいました。午後の往診では、新鹿の素晴らしい景色をみながらのドライブで、また野生の猿にも出会い、三重に来てよかったと心から思いました。

この短い1か月という期間でしたが、紀南病院のみに限らず、紀和診療所、荒坂診療所、尾呂志診療所、神島診療所、熊野消防署、地域の方々に大変お世話になり、充実した研修を送ることができました。今後は東京に戻って、ここ紀南まで名の轟く一流の外科医目指して頑張っていきたいと思います!!

「地域での生活」 市立四日市病院研修医2年目 三輪田哲郎

私の出身大学は三重大学で、大学5・6年で紀南病院へ実習にくるチャンスが何度かありましたが、悉くそのチャンスを逃していました（それぐらい人気のある実習先だったのでしょう）。中にはリピーターもあり、その彼らが良いところだったと口を揃えて言っていました（ただし、そのころは高速道路が完成しておらず、時間がかかることには不満を漏らしていました）。ちょうど高速道路も開通したし、みんながそこまで言うなら言うてみよう!という軽いノリでここ、紀南病院で研修をさせていただく運びとなりました。

病棟では、救急外来で診察した患者さんをそのまま自分で受け持つという自分の病院ではできないことをさせていただきました。もともと救急外来ばかり1年間やっていたので、不慣れな病棟業務に悪戦苦闘しました。急性期治療だけでなく食事・リハビリ・退院後の生活の支援など幅広く診療に携わることができ、救急外来だけでは一瞬の繋がりしかなく、長期的なサポートができないので、この点でもよい経験だったと思います。

勝手に院外研修と銘打って、紀南地区の地域を知るためにいろいろな場所に出かけました。近場だと鬼ヶ城、丸山千枚田、新鹿地区、布引の滝へ、遠方だと那智大社、潮岬へ出かけましたが、どの場所へ行ってもなかなかお目にかかることのできない壮大な景色を眺めることができ、自然を満喫しました。山や川の風景が好きな私にとってここは素晴らしい場所である、と認識しました。食を求めて遠くへも行きましたが、どこへ行っても外れはなく、おいしくいただきました。特にインター近くの「ほくしょう」というお店は安くてうまい魚とラーメンを提供して下さり、毎週密かに通っていました。

その他の活動としては、脳神経外科の仲尾先生に連れられて御浜町神木にひっそりと佇む剣道場へ出稽古をさせていただきました。稽古中は大分絞られ、運動不足の僕には地獄にしか思えませんでした（笑）。が、稽古の後にその場に集まる方と他愛もない話をしたり、自家製の梅ジュースを振舞ってくれたり、と地域の方との交流を楽しみました。

初めて自分の病院以外で医師として働いたのですが、最初のころは不安しかなく、足がすくんでおりました。しかし、上級医・コメディカルの方々・事務の方・そして地域の患者さんが話しかけてくれて、すぐに慣れることができ、業務をスムーズに行えました。この地方の人柄の良さがこの結果を生んだと私は思っております。この地で学んだことを引っ提げて、これからも肅々と診療をしていこうと思います。

最後になりましたが、指導医の野田先生をはじめとして内科の先生方、診療所の手配をくださった奥野先生・事務の赤崎さん、夜中に救急外来に呼んでも手厚く指導してくださった整形外科の植村先生・内藤先生、大学剣道部の大先輩である仲尾先生（みかんおいしかったです。ありがとうございました）、その他お世話になった方々に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。1か月間、ありがとうございました。

